

CIGS 宮家邦彦講演会 『中国と朝鮮半島をめぐる地政学的考察』

ロシアのクリミア侵攻によりポスト冷戦期は終わり、冷戦中封印されてきた各国の醜い「民族主義」が復活しつつある。世界が再び「民族主義」と「国際主義」の対立の時代を迎える中、ロシアの東欧における、中国の南シナ海・東シナにおける、ISIS のシリア・イラクにおける「力による現状変更の試み」の本質を解明しつつ、こうした世界的潮流が朝鮮半島の将来に及ぼす影響について地政学的見地から検証する。

<開催概要>

日 時： 2014 年 11 月 21 日(金) 14:00～16:00

場 所： 一橋大学学術総合センター2 階一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋二丁目 1-2)

定 員： 400 名

開 催： キャノングローバル戦略研究所

<講演者プロフィール>

宮家邦彦 キャノングローバル戦略研究所(CIGS) 研究主幹

キャノングローバル戦略研究所研究主幹／立命館大学客員教授

1978 年東京大学法学部卒業後、外務省入省。カイロ、バグダッド、ワシントン、北京にて大使館勤務。本省では、外務大臣秘書官、中東第二課長、中東第一課長、日米安保条約課長、中東局参事官などを歴任。2005 年、外務省退職後、株式会社外交政策研究所を設立。2006 年立命館大学客員教授。2006-07 年安倍内閣「公邸連絡調整官」として首相 夫人を補佐。2009 年 4 月より CIGS 研究主幹(外交安保)。

<プログラム>

14:00-14:10 開会挨拶

福井 俊彦 (キャノングローバル戦略研究所 理事長)

14:10-15:30 講演 『中国と朝鮮半島をめぐる地政学的考察』

宮家 邦彦 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)

15:30-16:00 質疑応答